

学校に行くとはどういうこと？

子どもの貧困研究のフロンティア 定例学術研究会 〈第52回〉

日程

2026 **3.19** 木



時間

18:30~20:00

場所

東京都立大学オープンユニバーシティ飯田橋キャンパス
(東京都千代田区飯田橋3-5-1東京区政会館 3階 35教室)

報告者

内田 康弘先生
愛知学院大学教養部 准教授

定時制・通信制高校の現代的特徴とその課題： 「学校に行くこと」をどのように考えるか

高校進学率の上昇や少子化の進行により、定時制・通信制高校では、たとえば不登校経験者や小中学校の学び直しを希望する者など、従前の勤労青少年から生徒層が変化した。今日では、昼間定時制や広域通信制、通信教育連携協力施設など、教育環境や教育内容の「多様化」が進み、「学校に行くこと」の意味や考え方にも変化が生じ始めている。そこで本発表では、定時制・通信制高校を取り巻く教育制度や求められる役割の変化を踏まえながら、参加者全体でその特徴と課題を考えてみたい。

ハイブリット開催

お申込み

オンライン: ZOOM



対面申込



(共催) 東京都立大学 子ども・貧困研究センター
(共催) 東京都立大学オープンユニバーシティ
(協力) 公益財団法人 特別区協議会

お問い合わせ：東京都立大学子ども・若者
貧困研究センター
E-mail: rccap@tmu.ac.jp